



エンマ大王が形相を変えて地獄の審判を下す『エンマ大王からくり山車』



仮装鬼踊りコンテストも行われた『鬼踊り大群舞』



登別牛など登別の味覚を満喫 (特設会場)

8月23日(金)〜25日(日)の3日間、『第50回登別地獄まつり』(市・登別観光協会主催)が開かれ、昭和39年の第1回開催から半世紀の節目を記念した多彩なイベントに、会場の登別温泉街は例年を上回る観光客や市民でにぎわいました。

今号では、例年以上の盛り上がりを見せた第50回登別地獄まつりの様子をお伝えします。

泉源公園に金棒モニュメントを設置

23日は、まつりのオープニングに先立ち、泉源公園で『金棒モニュメント除幕式』が行われ、登別観光協会の登別地獄まつり50周年事業により、同公園に高さ約5.5びの金棒8本のモニュメントがお目見えしました。

金棒は、泉源公園の中心に設置した方位盤から、8つの方角に配置し、方角により『家庭円満』、『商売繁盛』、『無病息災』などのご利益を設定しています。

夜には、オープニングセレモニーでまつりが開幕。登別小学校オニツコマーチングバンドの演奏や、ホテル・旅館のあんどん行列、エンマ大王が形相を変えて地獄の審判を下す『エンマ大王からくり山車』の運行、地獄谷花火大会が行われ、まつりの開幕に華を添えました。



金棒8本のモニュメントが設置された泉源公園



重さ約1トンの『赤鬼みこし』が極楽通りを練り歩いた
『鬼みこし暴れ練り込み』



お披露目された登別温泉のPRキャラクター『えんまくん』(中央)



勇壮な太鼓の演奏が観客を魅了した『和太鼓フェスティバル』



女性の威勢のいい掛け声が響いた『女みこし』

鬼踊り大群舞で まつりは最高潮に

24・25日の日中は、特設会場で、『ミュージック&フードフェスティバル2013』が開かれ、市内の牧場で飼育されている黒毛和種『登別牛』の販売や北海道猟友会室蘭支部から提供されたエゾシカ肉の無料配布が注目を集め、来場者は登別の食の魅力を堪能していました。

また、25日には、歌手・植村花菜さんのステージなどが行われ、会場を埋め尽くした来場者は、透き通るような歌声に聞き入っていました。

24・25日の夜には、極楽通りでエノンマ大王からくり山車の運行のほか、重さ約1トンの『赤鬼みこし』などが極楽通りを練り歩く『鬼みこし暴れ練り込み』が行われました。

『鬼踊り大群舞』では、温泉の湯気や鬼の角など、登別温泉の象徴的なものを表した覚えやすい振り付けに、観光客も『地獄ばやし』と太鼓に合わせ楽しく踊り、25日には、市内各地の町内会をはじめ、宮城県白石市・神奈川県海老名市・札幌市白石区などから多くの皆さんが踊りに加わり、まつりを盛り上げました。

最後は、初日に続き行われた地獄谷花火大会で閉幕。3日間、登別温泉街は地獄の熱気に包まれました。